

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 31日

事業所名 こども支援事業所 にじいろbuzen

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1	1	十分なスペースがある。活動別に区分できている。
	2	職員の配置数は適切である	7	1		配置人数である。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	4	2	2	スロープなどはあるが、小さな段差などもある。トイレなどに手すりがあってもよいのではないかな。
	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8			職員会議や朝礼で話し合いをし、記録に残して情報共有している。
業務改善	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	8			保護者の意見を出してもらい、早急な対応を目指している。
	6	この自己評価に結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	8			法人のホームページで、自己評価結果と改善内容を掲載している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	1		7	外部評価を行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	8			事業所内で月に1回、法人では定期的に行っている。自主研修として、動画研修を行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	8			ケース会議を実施し、事業所内相談時の保護者のニーズを踏まえ、個別計画を作成している。その後の経過、分析をまた会議で共有する。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4	4		児童発達でのポータープログラムを5領域を活用。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	8			個別支援計画に沿った支援を行えるように、日々のスケジュールにて意識を持って行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8			行事や園外活動を入れて、活動が重ならないようプログラムを工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め細やかに設定して支援しているか	6	1	1	平日と休日では活動の内容を変えている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8			家庭と連携しながら、個別支援計画書に沿った支援を取り入れている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	8			朝礼時に、その日の予定や役割分担を確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1		緊急時を除き、次の日の朝に振り返りを行い意見交換をしている。
	17	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	1		HUGにて支援記録を書いている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8			個々の個別支援計画状況を評価して見直しを行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	8			個別支援計画に基本活動を入れ、支援を行っている。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8			相談支援員・小学校などと関係機関と連携を取っている。また早急に解決したい内容は電話でのやり取りなどを行う。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	学校の情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)	8			下校時刻の確認など、毎月確認を行った。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医東都連絡体制を整えているか	2	3	3	医療ケアの対象がない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	8			必要な時に、保護者の承諾を得て、情報共有を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	1	6	1	学校卒業後の移行対象者がいなかった。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	6	2		近隣の児童発達支援センターとの相談・助言を受けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	4	3	連携し交流する機会はない。 公共の施設を利用した際の交流はある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	8			自立支援協議会子ども部会に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8			事業所内相談を実施しており、利用児の様子や課題の評価などの話し合いを持っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	3	1	事業所内相談の際に、助言やアドバイスを行っている。電話での相談なども受けている。
	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1		利用手続きの時に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	8			事業所内相談の際に、助言やアドバイスを行っている。電話での相談なども受けている。
保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	7	保護者会がないため、開催することがない。
	33	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8			迅速かつ適切に対応している。
	34	定期的に、会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	8			法人のブログを掲載している。また必要に応じてお知らせ等をHUGIに載せている。
	35	個人情報の取扱いに十分注意しているか	8			名前の記載がある書類等の扱い方についての研修会を行い、十分に注意を払っている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1		紙面でわかりやすく伝えている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている		1	7	地域と交流する場面がなかった。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	1		マニュアルを利用手続き時に見せて、説明している。訓練を行っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8			避難・消火訓練を年3回の訓練をしている。
非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8			法人の研修会や動画研修を利用し、行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8			やむを得ない場合のみ、保護者の同意の上放課後等デイサービス支援計画に記載するようにしている。現在は対象者がいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	6	1	食事の提供を行っていないが、必要に応じては医師の指示書を提出してもらっている。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
応	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8			毎月アクシ・ヒヤリの集計を委員会が行っている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

